

# 津波石

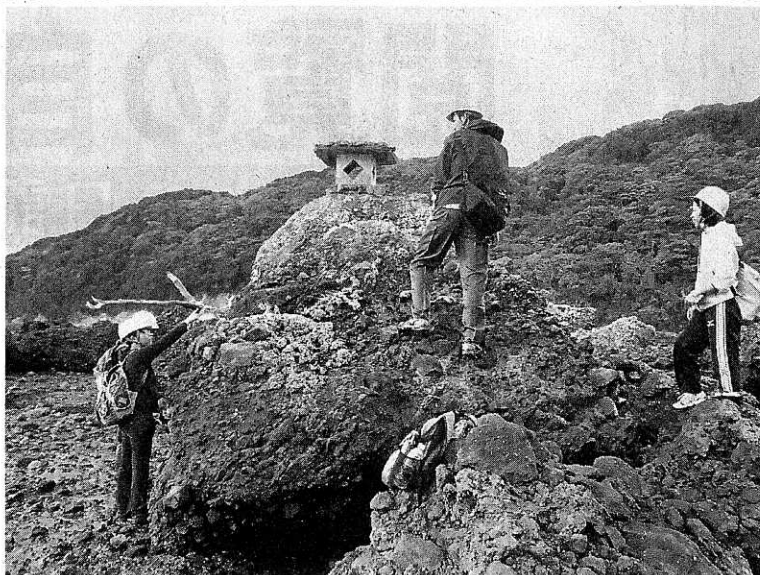
安政東海地震で動く？

下田で発見

## 付着生物化石で特定

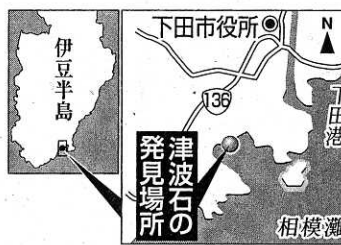
静岡大

大きな被害をもたらした安政東海地震(1854年)による津波で動いたとみられる大型の「津波石」が、下田市五丁目の海岸付近で見つかった。静岡大の北村晃寿教授(古環境学)らのグループが、表面に残った海生生物の化石などから津波石と特定した。北村教授によると、安政東海地震の津波石が確認されたのは初めて。



下田市の海岸で見つかった津波石(中央)。海水に触れない部分にフジツボの化石が付いている=2013年10月(北村晃寿静岡大教授提供)

**Q** 津波石 大きなエネルギーを持つ津波による水の力で移動し、岸に打ち上げられるなどした岩石。過去に繰り返し津波に襲われてきた沖縄県・先島諸島や、東北地方の三陸海岸沿いなどでこれまでに確認されている。沖縄県・石垣島東海岸の沿岸部には、推定重量千トを越す巨石もある。付着したサンゴの年代を測定したり、岩石の分布を分析したりすることで、大津波の発生周期を推定するなどの研究も進められる。



発見された津波石は縦3・4メートル、横3・4メートル、高さ2・5メートル、推

定重量32トで、波に浸食されてできた浅い海にある岩の一つ。過去に海岸付近の崖から崩れ落ち、津波の前から周辺にあったとみられる。

岩上部の表面には、フジツボやケガキなどの化石が付着している。満潮時に海水に漬からない位置にも化石

が分布しているため、北村教授はこの岩が何らかの力で動き、フジツボなどが水面上に出たと推測した。

化石の一部を採取して年代を測定したところ、1709年から現代までの間の化石と判明。この期間中に、周辺で地盤が隆起した記録や被害を及ぼした高波の記録がないため、「安政東海地震の津波によって岩が回転した」と結論付けた。

安政東海地震では、現在の下田市付近を高さ6メートル以上の津波が襲ったとされる。北村教授は「巨大な岩を動かす津波の規模感が分かる。今後は動かした津波のエネルギーの大きさも調べたい」と話している。